輸入検疫で発見された主な重要病害虫

2003年に輸入された植物から発見された主な重要病害虫は下表のとおりである。これらの病害虫の多くは携帯品で持ち込まれた輸入禁止生果実から発見されている。また、輸入禁止対象病害虫及び特定重要病害虫以外でもアメリカ産セロリー等8カ国26種類からアシグロハモグリバエ(210件)、タイ産トウガラシ生果実等10カ国6種類からマレーシアミバエ(196件)、フランス産サトウダイコン等6カ国6種類からテンサイさび病菌(21件)、オランダ産メキャベツ等4カ国5種類からキャベツハナバエ(18件)等重要な病害虫も数多く発見されている。

	発見病害虫名	寄主植物別発見回数	輸出国別発見回数
輸入禁止対象病害虫	*Bactrocera cucurbitae* ウリミバエ(12件)	ニガウリ（4）　ヘチマ（2）　トカドヘチマ（2）　ササゲ（3） その他のウリ科（1）	フィリピン（3）　タイ（3）　台湾（2） ベトナム（2）　中国（1）　インドネシア（1）
	Bactrocera dorsalis species complex ミカンコミバエ種群（152件）	マンゴウ（41）　パンジロウ（18）　レンブ（18）　トウガラシ（17） サントール（8）　レイシ（7）　トゲバンレイシ（4）　その他23種	フィリピン（51）　タイ（27）　台湾（25）　インドネシア（19） ベトナム（13）　シンガポール（4）　その他7ヶ国
	Bactrocera tryoni クインスランドミバエ(2件)	アテモヤ（1）　パッションフルーツ（1）	オーストラリア（2）
	Ceratitis capitata チチュウカイミバエ（2件）	パンジロウ（1）　ピーマン（1）	ブラジル（1）　ギニア（1）
	Cylas formicarius アリモドキゾウムシ（5件）	サツマイモ生塊根（3）　ランサット包装内（1）　アザディラクタ属（1）	フィリピン（3）　ベトナム（1）　タイ（1）
特定重要病害虫	*Aleurocanthus woglumi* ミカンクロトゲコナジラミ（1件）	スワンギ（1）	タイ（1）
	Anastrepha fraterculus ミナミアメリカミバエ（5件）	パンジロウ（2）　マンゴウ（2）　*Citrus*属（1）	ブラジル（4）　ペルー（1）
	Anastrepha suspensa カリブミバエ（1件）	マンゴウ（1）	キューバ（1）
	Ceratitis rosa ナタールミバエ（1件）	マンゴウ（1）	ウガンダ（1）
	Diabrotica undecimpumctata ジュウイチホシウリハムシ（6件）	セロリー（2）　タチチシャ（2）　カラシナ（1）　コリアンダー（1）	アメリカ（6）
	Graphognathus leucoloma シロヘリクチブトゾウムシ（1件）	混合野菜（1）	オーストラリア（1）
	Otiorhynchus ovatus (Linnaeus) イチゴクチブトゾウムシ（3件）	モミ属切り枝（2）　トガサワラ属切り枝（1）	アメリカ（3）
	Pantomorus cervinus フラーバラゾウムシ（20件）	ウンシュウミカン（18）　オレンジ（2）	ニュージーランド（18）　アメリカ（1）　チリ（1）
	Zabrotes subfasciatus ブラジルマメゾウムシ（1件）	インゲンマメ種子（1）	ブラジル（1）

海外のニュース　インパチエンスべと病（仮称）

インパチエンスの病害といえば、最近、ウイルス病（*Impatiens necrotic spot virus* (INSV)）が注目されているが、海外ではインパチエンスのべと病も話題となっている。

昨年、英国では本病が発生し生産者に損害を与え、驚かれた。また、アメリカ合衆国では本病は1942年から知られており、これまでさほど問題となっていなかった病害であるが、本年、ミシガン州ほか数州において発生が確認されたことから、ミシガン州立大学の研究者は、生産者に対して、もし、本病の早期発見、適切な防除がなされなければ爆発的に深刻な病害にもなりうるとして、本病の発生調査を踏まえた注意喚起が行われた。

本病の病原菌は、*Plasmopara obducens* であり、韓国、中国、ヨーロッパ、北アメリカなどに分布している。病徴は葉表では健全部との境界が不明瞭な斑紋状となる。

なお、インパチエンスにはもう1種のべと病菌 *Bremiella sphaerosperma* が北アメリカやロシアに発生している。この病徴は葉に明瞭な斑点を生じる。両菌の特徴の比較は表のとおりである。

表　インパチエンスべと病菌の特徴の比較

	P. obducens	*B. sphaerosperma*
病徴	不明瞭（斑紋）	明瞭（斑点）
寄生部位	子葉、本葉	本葉
胞子のう	卵形	球形
胞子のう柄	主軸が直、枝はほぼ直角	上部で屈曲した枝が分岐
枝の先端	尖る	やや膨らむ
有性器官	茎に形成	葉に形成

Constantinescu, O.(1991)を改変

両病菌とも葉裏に胞子のう柄や胞子のうからなる白色～淡灰色の「けば立ち」を生じるので、葉表の病徴が不明瞭な場合は、この病徴に留意する必要がある。

（参考　1. http://www.plantpathology.msu.edu/labs/hausbeck/hausbeckDownyMildew.htm
2. Constantinescu, O. 1991. Bremiella sphaerosperma sp. nov. and Plasmopara borreriae comb. nov. Mycologia 83:473-479.）

発行所　横浜植物防疫所
〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎 ☎(045)211-7155
発行人　奥富一夫
編集責任者　佐々木　武
印刷所　内村印刷株式会社

農林水産省